

# 建学の精神

廣瀬 舟雲

教育学部  
廣瀬 裕之 教授

題字

## 理想と人格

### 高楠順次郎先生が私たちに投げかける宿題

武蔵野大学 通信教育部 人間科学部 講師 亀山 光明

「理想が高まるに従って人格が高まり、人格が高まるに従って高い理想が現出する」。これは、仏教による人格教育を建学の精神に据えた武蔵野大学の学祖・高楠順次郎先生の言葉です。今年、私は武蔵野大学に着任し、授業や学生との対話を通してこの建学の精神に触れてきました。その中で最も心に残ったのが「理想」という言葉でした。

では、理想とは何でしょうか。「あなたの理想は何ですか？」と問われたとき、すぐに答えられる人は多くないかもしれません。「理想なんて現実、離れている」「所詮、理想論にすぎない」といった声が頭をよぎることもあるでしょう。現実の困難に打ちのめされ、夢や目標を諦めてしまった経験は誰しもが持っているはずで、格差や差別、戦争や環境問題が渦巻く世界で、私たちはどうすれば理想を持ち続けられるのでしょうか。

高楠先生にとつての理想は、釈尊の人格を仰ぎ、その完成を目指すことでした。そう聞くと、理想という言葉が自分には縁遠く思えるかもしれません。しかし理想とは、必ずしも高邁なもの

である必要はありません。高楠先生は「蟹はその甲羅に似せて穴を掘る」と喩え、まずは自分の身の丈に合った理想でよいと説いています。

たとえば、武蔵野大学はいまや総合大学として多様な学びの場を有しています。それぞれの分野に、それぞれの理想があるでしょう。近年、本学が重視する「ウエルビーイング」や「SDGs」もまた理想の姿の一つです。そして学生一人ひとりにも、「世の役に立ちたい」といったものから「健康でいたい」「経済的に安定したい」「幸せな家庭を築きたい」といった多様な理想があるはずです。

ときに、それらは利己的で自己本位なものに見えるかもしれません。では、そうした理想はどうすれば他者や世界に開かれていくのでしょうか。高楠先生は自らの理想と他者の幸せは究極的には一致しなければならないと強調しています。「ここでいう他者とは仏教の言葉でいう「衆生」、すべてのいのちを指しています。自己の理想と世界の幸福が交わる時、理想は高まり、人格もまた磨かれていくのです。

ビジネスを例に考えてみましょう。利潤追求は企業活動の理想の一つかもしれませんが、しかし、その成果が世界の幸福と一致しないならば、現状に安住することはできません。中央商業学校（現・中央学院大学）の創設にも携わった高楠先生は「お経と算盤」を支柱に近代的な商業行為に倫理的基盤を与えようとした。まさに自己の理想を世界の幸福へとつなげようとする実践です。

高楠先生の言葉は、私たちが自らの理想や幸せを追い求めるときに、どうすればそれが他者の幸せと結びつくのかを問い続けるよう促しています。では、皆さんの理想は何でしょうか。その理想は、どのようにすれば世界の幸せと交わりうるのでしょうか。もちろん、容易な道ではありません。この問いは、今を生きる私たち一人ひとりに託された、解かれることのない宿題です。

## 建学の精神としての四弘誓願

武蔵野大学の建学の精神は、仏教の根本にある四弘誓願に表されています。

衆生無辺誓願度

煩惱無数誓願断

法門無尽誓願学

仏道無上誓願成

人格向上の道を、ともに歩みたい

四弘誓願は、大乘仏教において菩薩がまず立てる四つの誓いであり、仏教の根本原理にして、すべての衆生を救おうとする慈悲のあらわれとされます。その精神を建学の中心に据えた本学の現代的理解において、とりわけ「ともに」という言葉は重みを持つと思います。理想と人格の向上は一人ですべて完結するものではなく、互いに学び合い、共に歩む営みの中で育まれるのです。理想を持ち続けることは自分を磨く力となり、磨かれた人格は新しい理想を生み出します。四弘誓願は、そうした向上の歩みを示す、建学の精神の根幹なのです。